

2020年12月6日

アドベント第2週礼拝説教要約

主は世界をさばかれる

(詩篇9:1-11)

一、主の奇しみわざ(1-3節)

(※作者をダビデとして読んだため、「ダビデ」と表記しました。)

1節をご覧ください。心を尽くして私は主に感謝をささげます。あなたの奇しみわざのすべてを語りあげます。と「ダビデ」は、おそらく公の場で、主に感謝をあらわしました。「ダビデ」が心を尽くして主に感謝をささげた理由は何かでしょうか。それは、1節2行目にあります、主の奇しみわざのゆえにでした。神を信ずる者がささげる感謝は、理由もなくささげているではありません。ダビデの生涯は波乱に富んでいましたが、何度も間一髪というところで難を免れました。それを指して、奇しみわざと語っているようです。

ですが、私たちが詩篇を神のことばとして読む場合、もっと大きな意味で捉えたほうがよろしいかと思えます。例えば、出エジプトの出来事です。かつてイスラエルがエジプトで奴隷状態にあった時、民が、苦しみの中から主に祈り求めると、主はモーセを立てて、イスラエルの民をエジプトの奴隷状態から救い出してくださいました。まさしく

奇しみわざです。あるいは、ダビ

デの時代から五百年後のことになりませんが、イスラエルが祖国を失い、バビロンを始めとする異国で暮らしていたとき、ペルシアの王キュロスがイスラエルの人々に、エルサレムに帰り、神殿を再建するように勅令を下したことです。この出来事は、出エジプトに続く奇しみわざでした。そして、天地万物を造られた神が御子イエス・キリストを遣わし、キリストを信じるだけで、どんな人でも救われるようにされたのが、最大の奇しみわざです。2節を見てください。いと高き方よ、あなたの御名をほめ歌います。と、「ダビデ」は歌っています。「ダビデ」が味わった喜びは、主なる神との関係においてもたらされた喜びでした。続いて、3節です。私の敵は退くとき、御前でつまずきついえまず。とあります。神への感謝が弱くなったと思われるときは、主が私たちにどんなに大きなことをしてくださったか、どんなにあわれんでくださったかを思い返したらよろしいです。

二、主は世界をさばかれる(4-8節)

「ダビデ」は神を、義の審判者として見ていました。4節です。あなた私の正しい訴えを聞かれるからです。義の審判者として王座に着いておられるからです。と、「ダビデ」は、主は天

におられ、貧しい者(神に依り頼む者の訴えを聞かれると確認しています。神は、御自身が定められた「時」に、御手を動かされます。

5節、6節をご覧ください。あなたは国々を叱り、悪しき者を滅ぼし、彼らの名を、とこしえに消し去られました。敵は絶え果てました。――永遠の廃墟、あなたが根こそぎにされた町々――彼らの記憶さえ消え失せました。とあります。神が立ち上がり事を行われますと、罪に対して容赦はなさいませぬ。その、神の容赦のないさばきは、私たちの罪のために十字架で、聖なる神からの罰を受けられたイエス・キリストに下されました。

7節をご覧ください。しかし、主はとこしえに御座に着き、さばきのために王座を堅く立てられた。とあります。今、天の御座についておられるお方は、主イエス・キリストです。そして、主イエス・キリストが神の義によって世界をさばかれます。8節の、主は義によって世界をさばき、公正をもって、もろもの国民をさばかれる。がそうです。黙示録によれば、屠られた子羊であるキリストが世界をさばかれます。すなわち、みこころに副って判決を下されます。

三、主は見ておられる(9-10節)

9節、10節をご覧ください。主は虐

げられた者の咎、苦しみのときの咎。御名を知る者は、あなたに拠り頼みます。主よ、あなたを求めざる者を、あなたはお見捨てになりませんでした。とあります。神はしっかりと見ておられます。特に、虐げられた者、すなわち神に依り頼む者の叫びを忘れられることはありません。

四、シオンに住まわれる(11節)

11節をご覧ください。主にほめ歌を歌え、シオンに住まうその方に。主のみわざを告げ知らせよ、国々の民に。とあります。私はここに、キリスト教会がささげる礼拝の大切さが表れていると思います。と言いますのは、シオン、すなわちエルサレム神殿が建っていた丘を住まいとして定められたのは主ご自身だからです。詩篇に(詩篇132:13)主はシオンを選び、それをご自分の住まいとして望まれた。とあります。神は一箇所に縛られているお方ではありませんが、シオンを選び、そこを御自身の住まいと決められたのは主ご自身です。そして、神が遣わされた御子イエス・キリストは、御霊と真理によって父を礼拝することを教えられました(ヨハネ4:21、23)。キリスト教会は神を御霊と真理によって、すなわち聖霊と御子イエス・キリストによって示された真理によって礼拝をささげられるよう、常々努力しています。